

全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年5月16日

予報期間：5月18日～6月17日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

東日本太平洋側と西日本では、期間の前半は天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。期間の後半は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

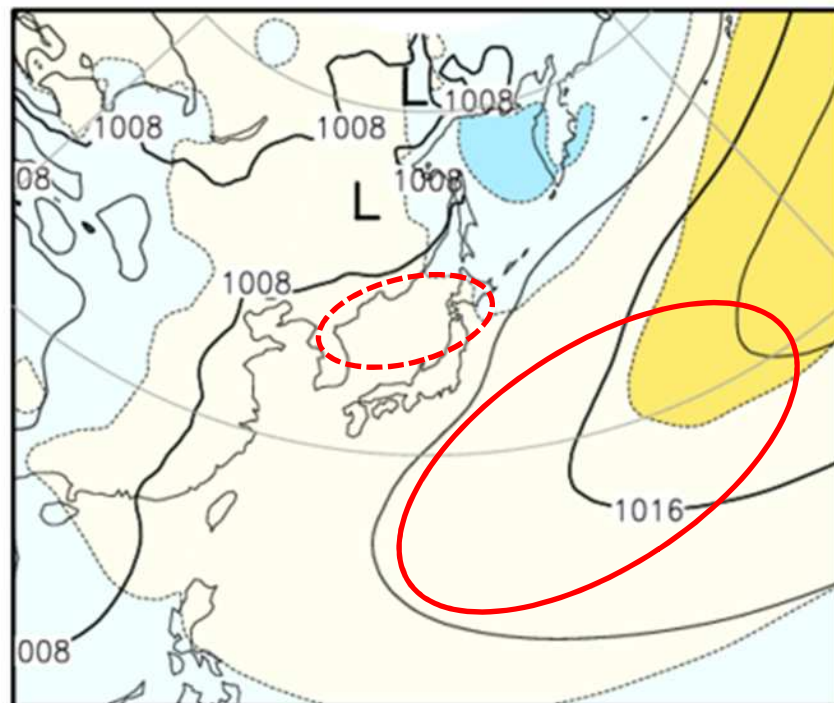
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	40:30:30	20:40:40	
	太平洋側		40:30:30	20:40:40	
東日本	日本海側	10:20:70	40:30:30	30:40:30	
	太平洋側		30:30:40	40:30:30	
西日本	日本海側	10:20:70	30:30:40	40:40:20	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
沖縄・奄美		10:20:70	20:40:40	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:30:60	20:40:40
東日本	10:10:80	10:20:70	20:30:50
西日本	10:20:70	10:20:70	20:30:50
沖縄・奄美	10:30:60	10:20:70	10:40:50

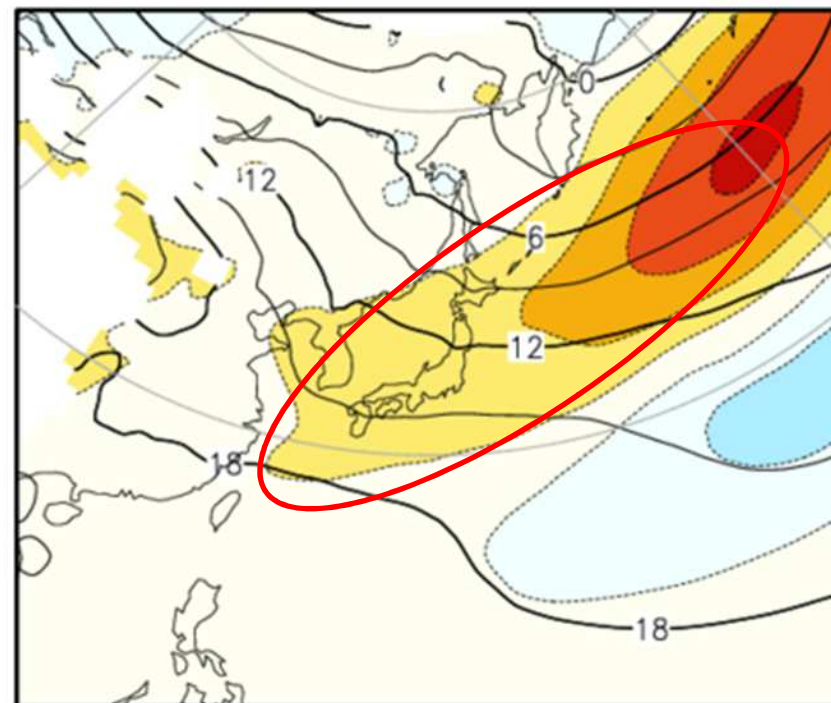
全般予報のポイント

- 暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は全国的に高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
- 北日本では、高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。
- 西日本と沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、西日本太平洋側と沖縄・奄美の向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。西日本の向こう1か月の日照時間は平年並か少ないでしょう。

地上気圧(1か月)



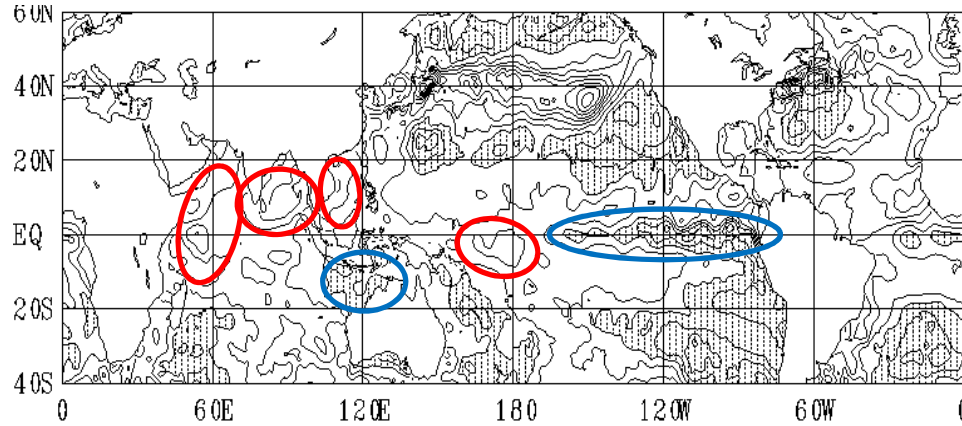
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の地上気圧(左図)は、日本の南東に高気圧が張り出すため、西日本太平洋側を中心に高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込みです。また、北日本では高気圧に覆われやすい時期がある見込みです。

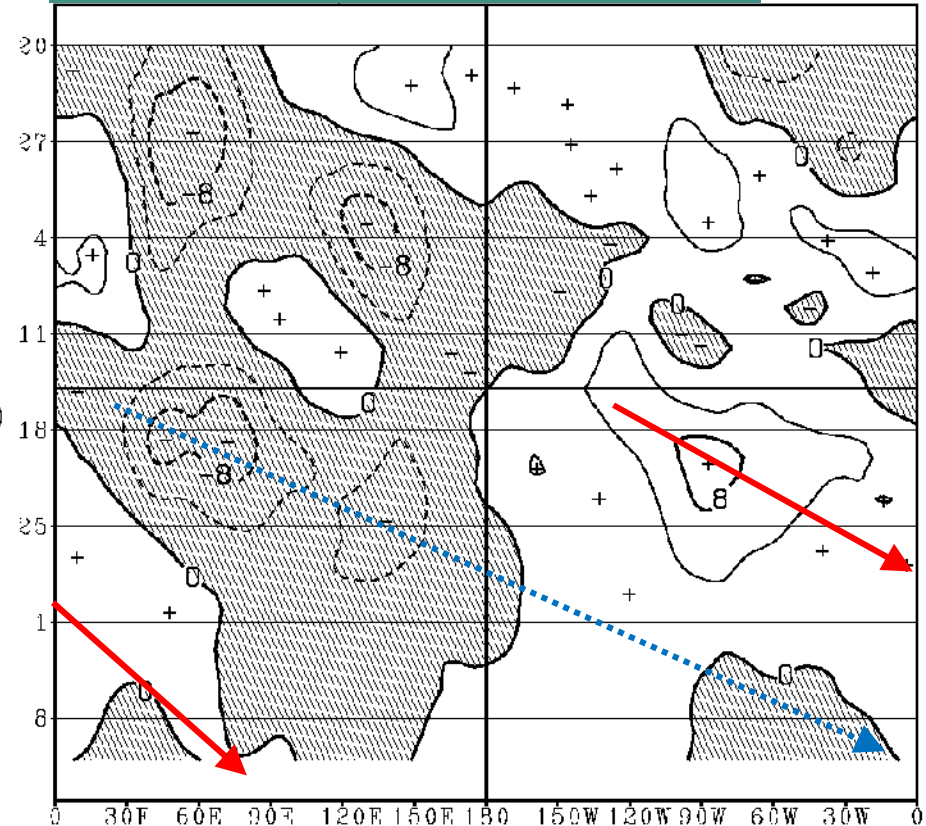
上空約1500mの気温(右図)は、日本付近は平年より高く、南から暖かい空気が流れ込みやすい時期がある見込みです。

SST偏差



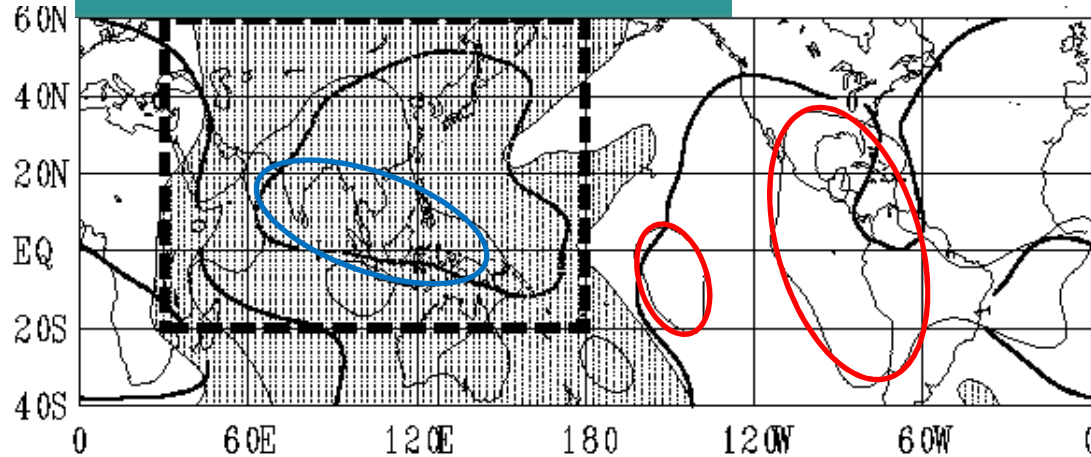
太平洋赤道域は日付変更線付近を中心に正偏差で、南シナ海も正偏差だが、太平洋赤道域東部には負偏差も見られる。
インド洋熱帯域は西部とベンガル湾を中心に正偏差だが、インドネシアの南には負偏差も見られる。

200hPa速度ポテンシャル偏差



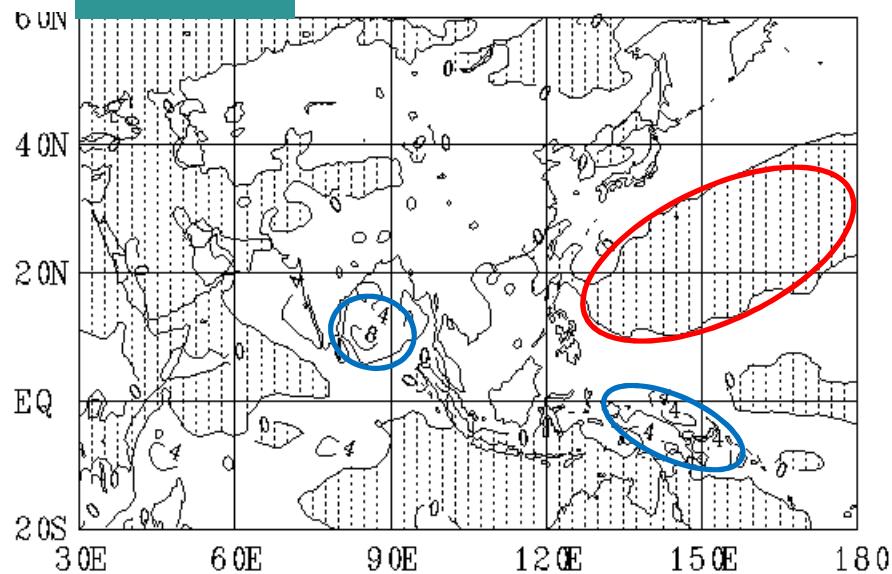
MJOの対流活発域が東進し、1週目はインド洋西部で、2週目は太平洋西部で対流活発となる。期間の前半を中心に、一時的にアジアモンスーン循環が強まる見込み。

200hPa速度ポテンシャル



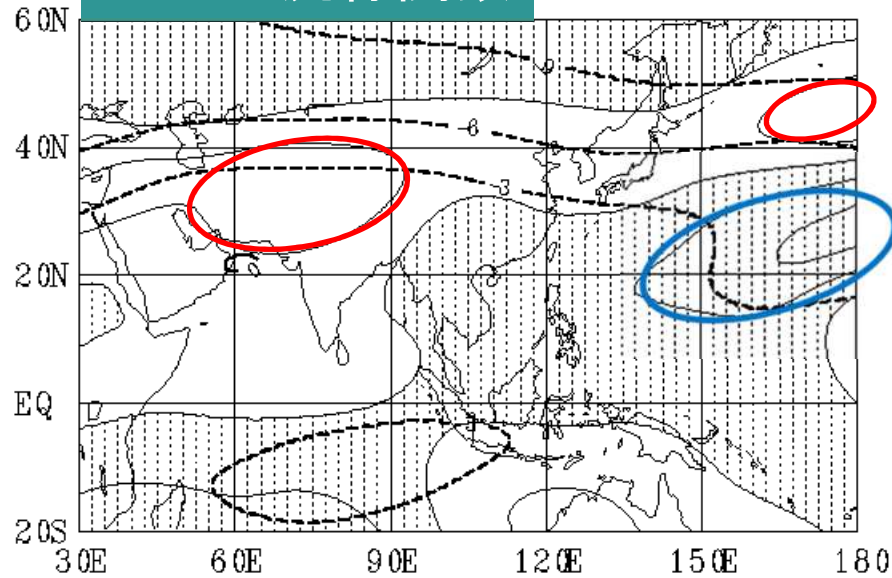
赤道域では、インドからインドネシア付近にかけて上層発散偏差、日付変更線の東と太平洋東部で上層収束偏差。

降水量



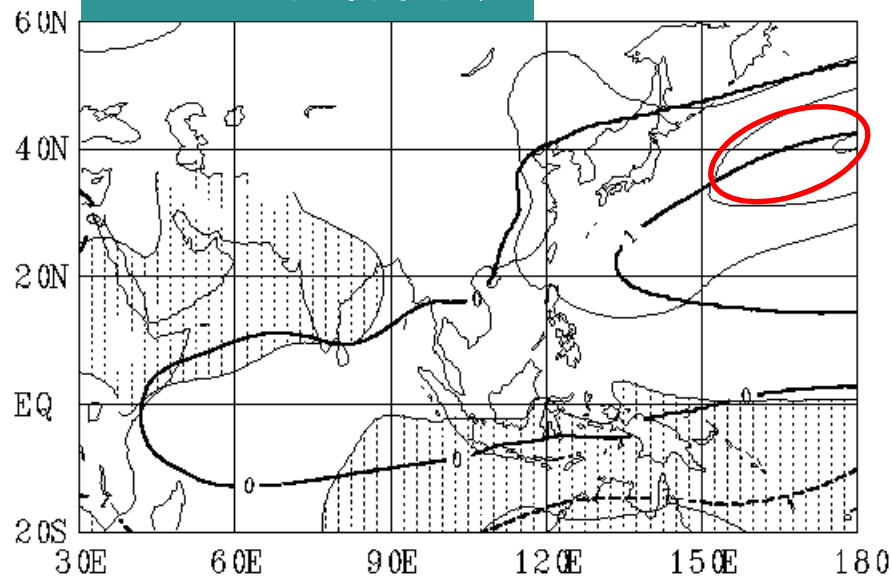
ベンガル湾とニューギニア付近で多雨偏差、フィリピンの東から日付変更線にかけて少雨偏差。

200hPa流線関数



日本の南東を中心に低気圧性循環偏差、中央アジアとアリューシヤンの南は高気圧性循環偏差。

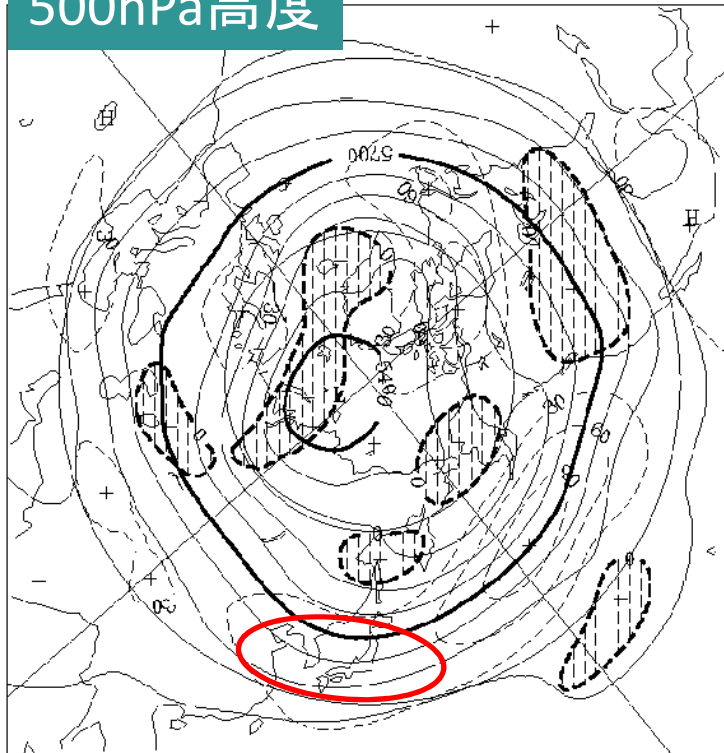
850hPa流線関数



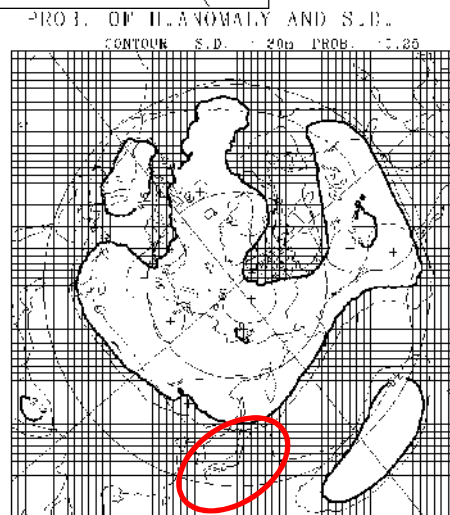
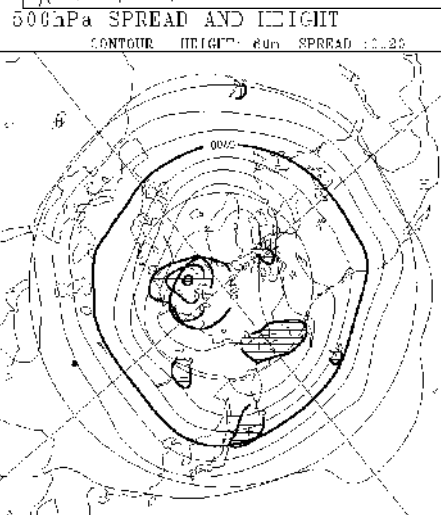
日本の東を中心に高気圧性循環偏差。

予報資料の解釈 1か月(5/18~6/14)

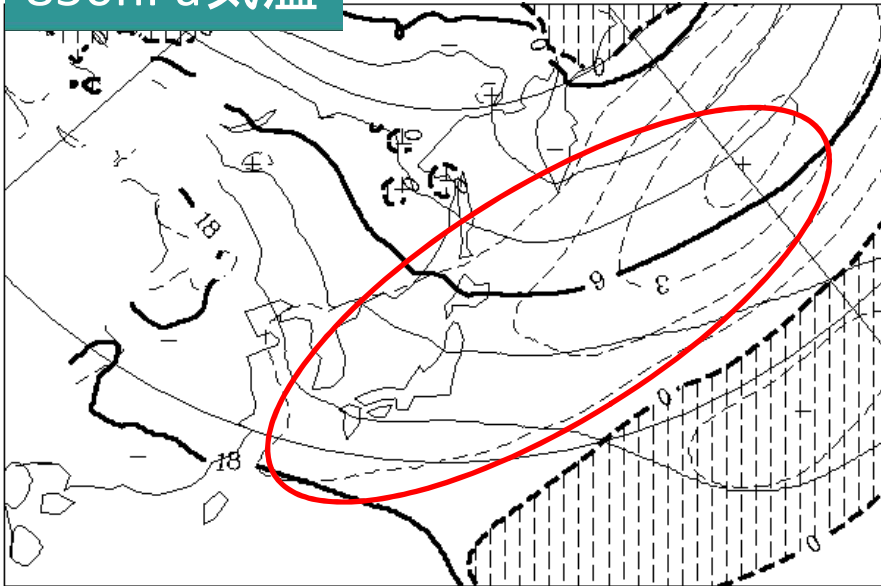
500hPa高度



日本付近は正偏差に広く覆われる。また、日本付近は正の高偏差確率の大きい領域に覆われる。

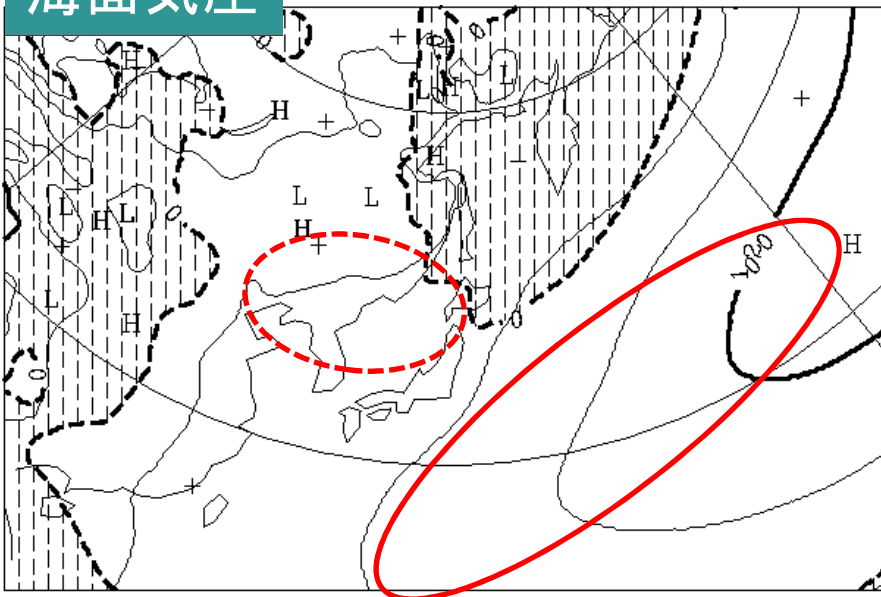


850hPa気温



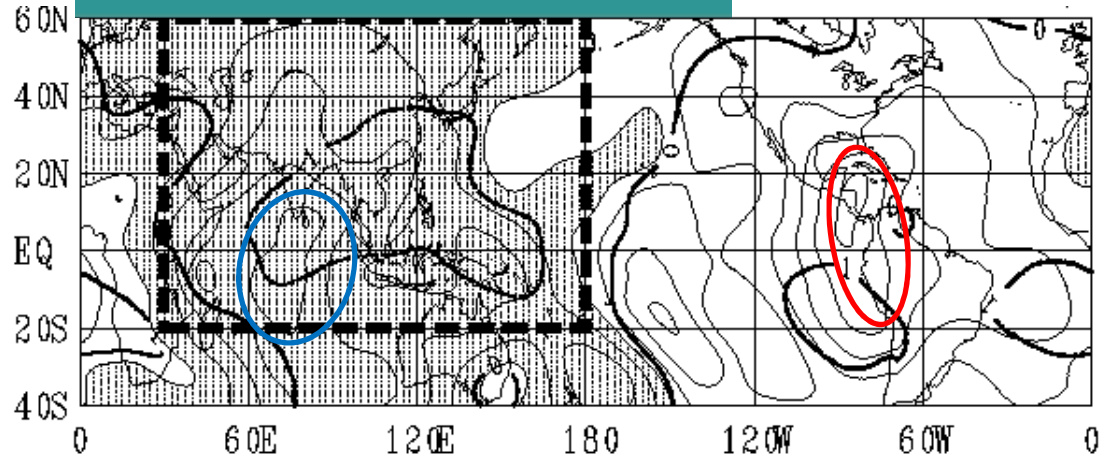
日本付近は高温偏差に覆われる。

海面気圧



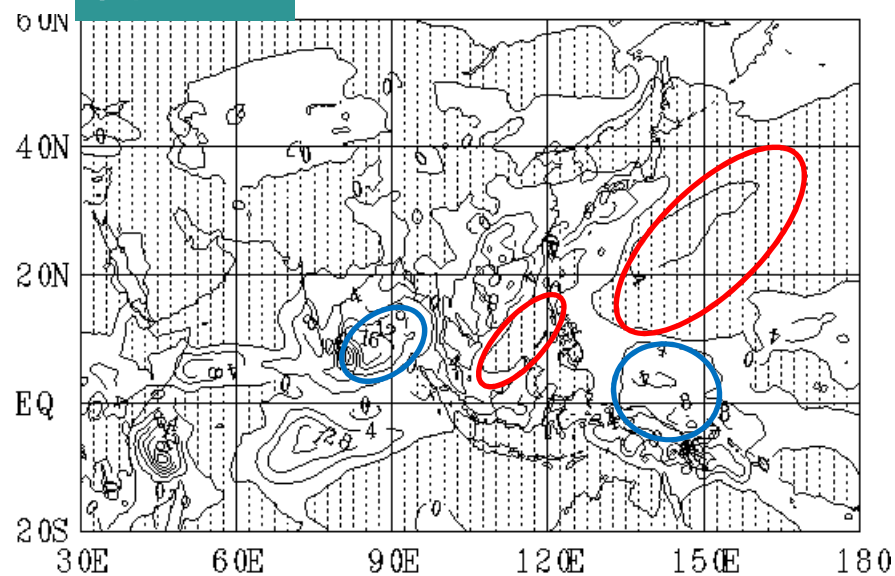
日本の南東に高気圧が張り出すため、西日本太平洋側を中心に高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込み。また、北日本では高気圧に覆われやすい時期がある見込み。

200hPa速度ポテンシャル



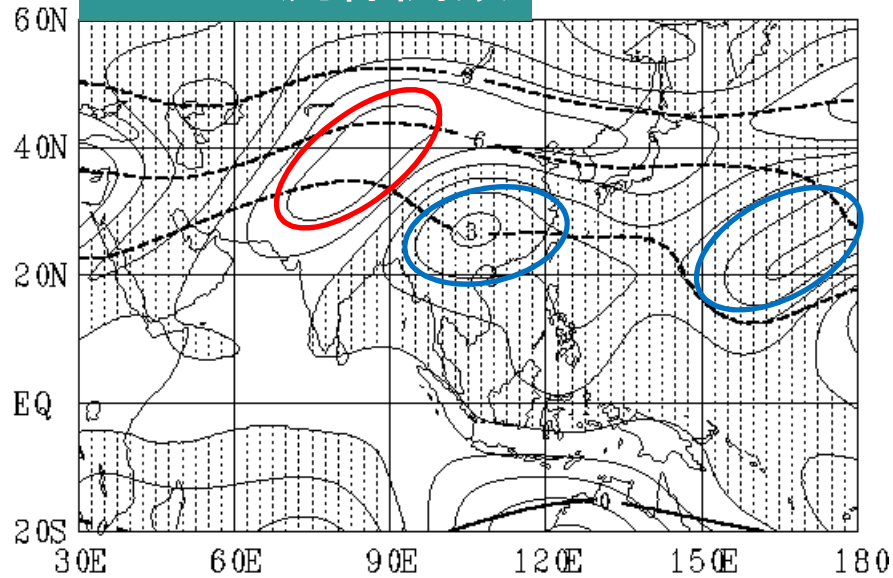
インド洋を中心に上層発散偏差、太平洋東部で上層収束偏差。

降水量



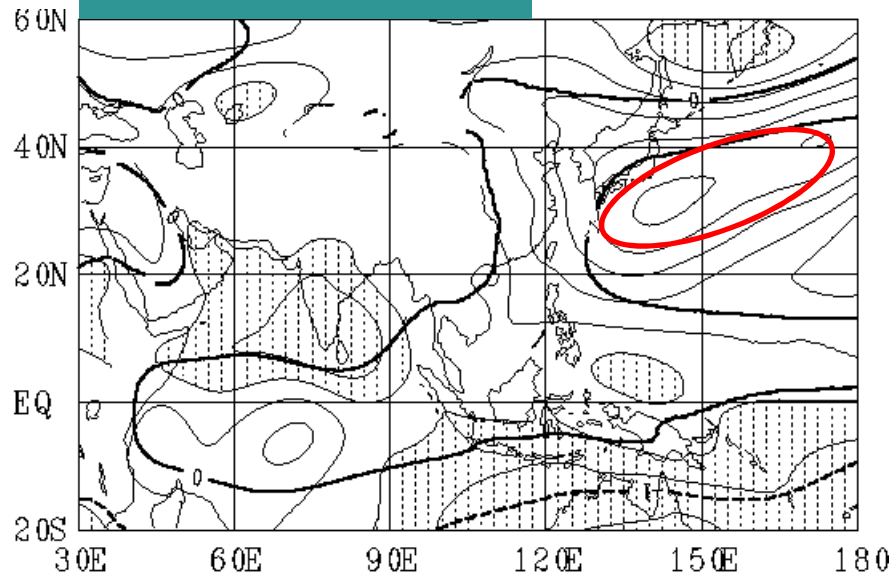
ベンガル湾とニューギニア付近で多雨偏差、南シナ海とフィリピンの東から日本の南東海上にかけて少雨偏差。

200hPa流線関数



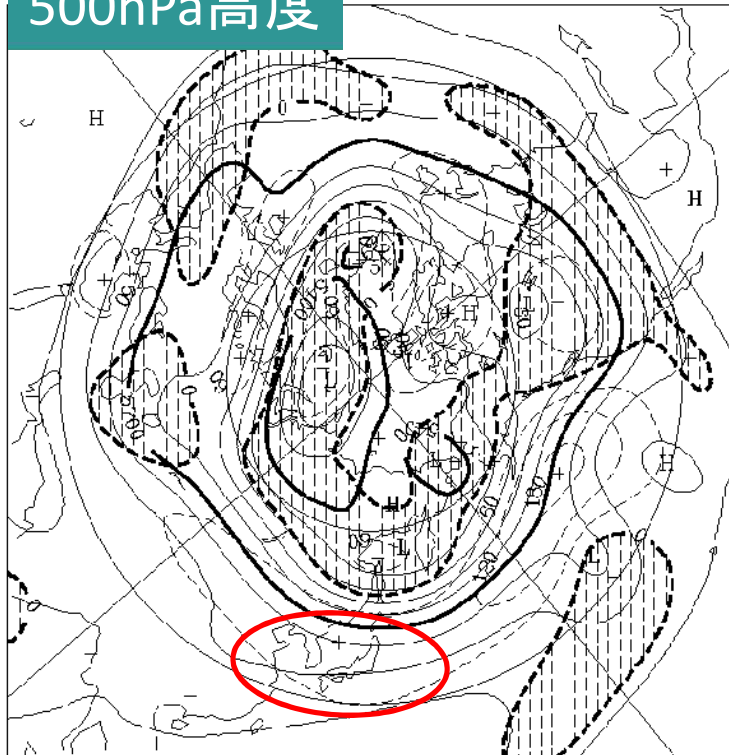
華南付近と日本の南東を中心に低気圧性循環偏差、中央アジアは高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数

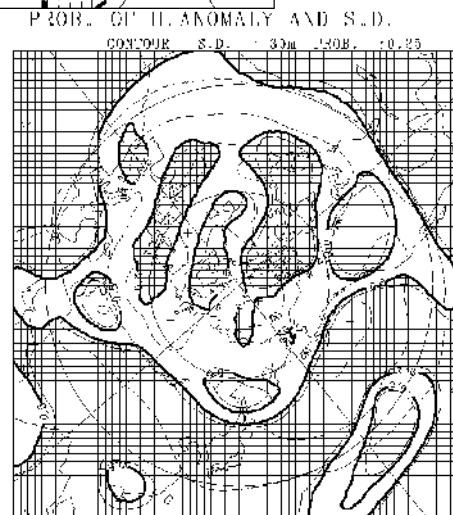
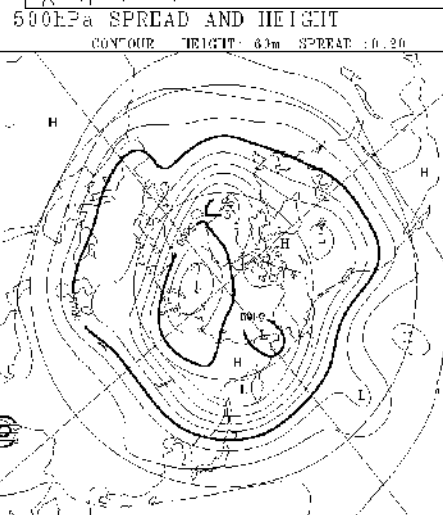


日本の南東は強い高気圧性循環偏差で、西日本と沖縄・奄美を中心に暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

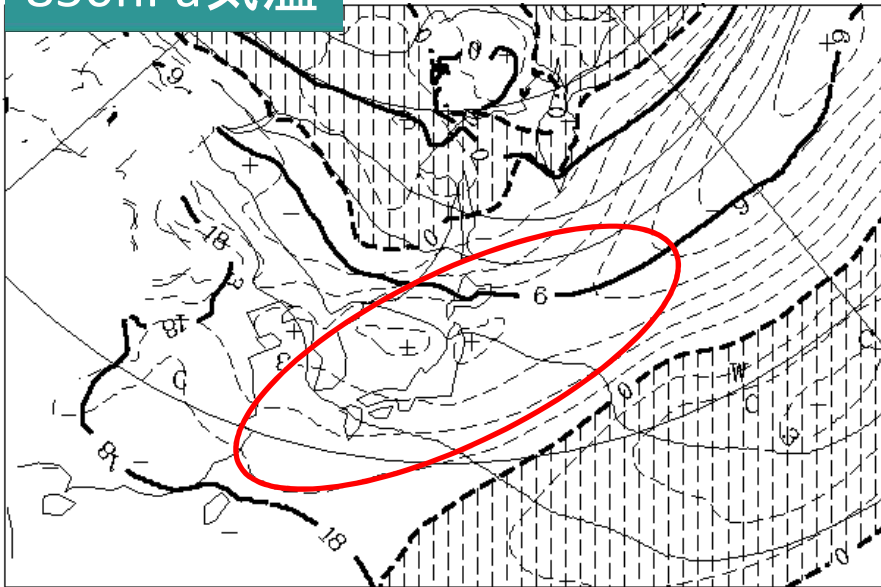
500hPa高度



日本付近は正偏差だが、華中ではトラフとなり、西日本を中心に前線や湿った空気の影響を受けやすい。

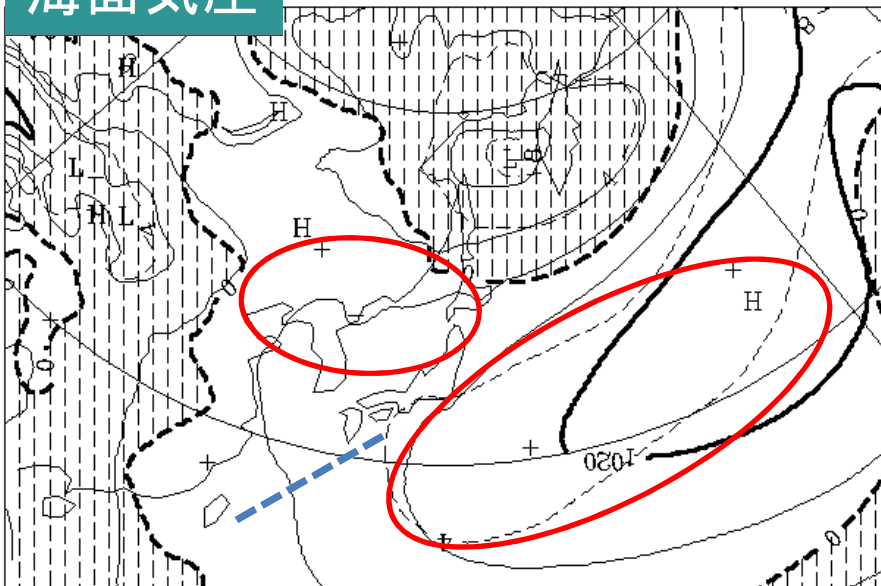


850hPa気温



日本付近は高温偏差に覆われる。

海面気圧



中国東北区から朝鮮半島付近に高気圧があり、北日本は高気圧に覆われやすい。また、日本の南にも高気圧が張り出すため、東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美は前線や高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

- 北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすく、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
- 東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- 沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

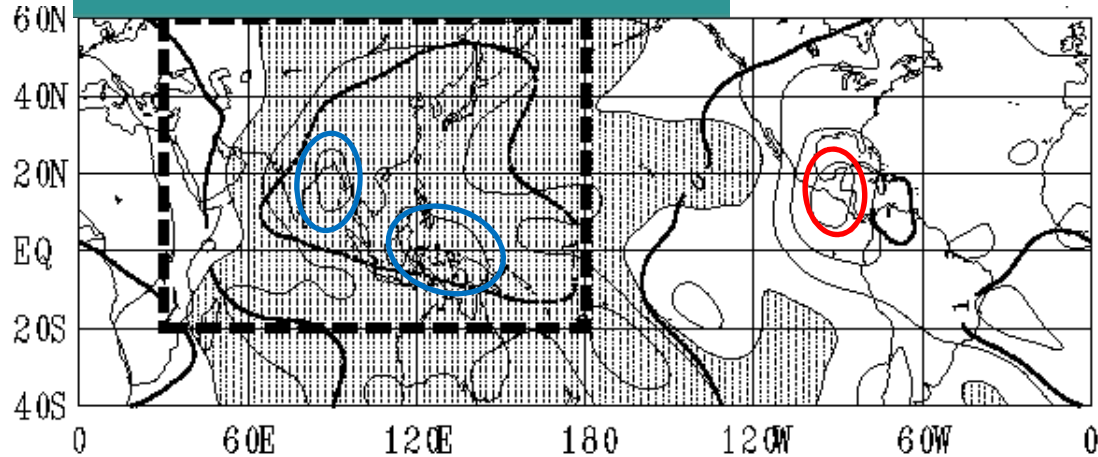
<気温>

暖かい空気が流れ込みやすいため、全国で高温。北・東日本では気温がかなり高くなる見込み。

<天候>

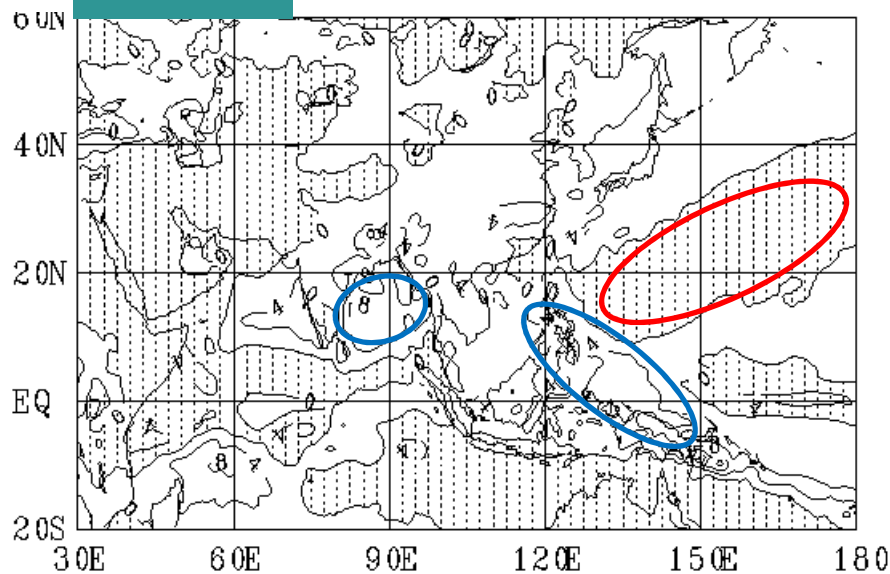
前線や湿った空気の影響を受けやすい西日本太平洋側は多雨傾向で寡照、沖縄・奄美は多雨傾向で寡照傾向、湿った空気の影響を受ける東日本太平洋側は並雨で寡照傾向、西日本日本海側は並雨で寡照傾向、前線から離れた東日本日本海側は少雨並照、高気圧に覆われやすい北日本は少雨多照。

200hPa速度ポテンシャル



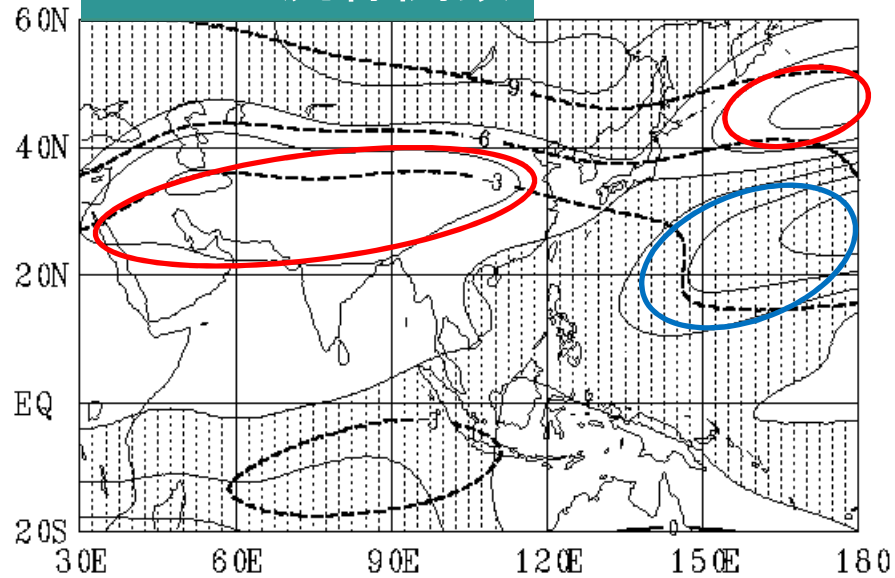
ベンガル湾とインドネシア付近を中心に上層発散偏差。
中米付近は上層収束偏差。

降水量



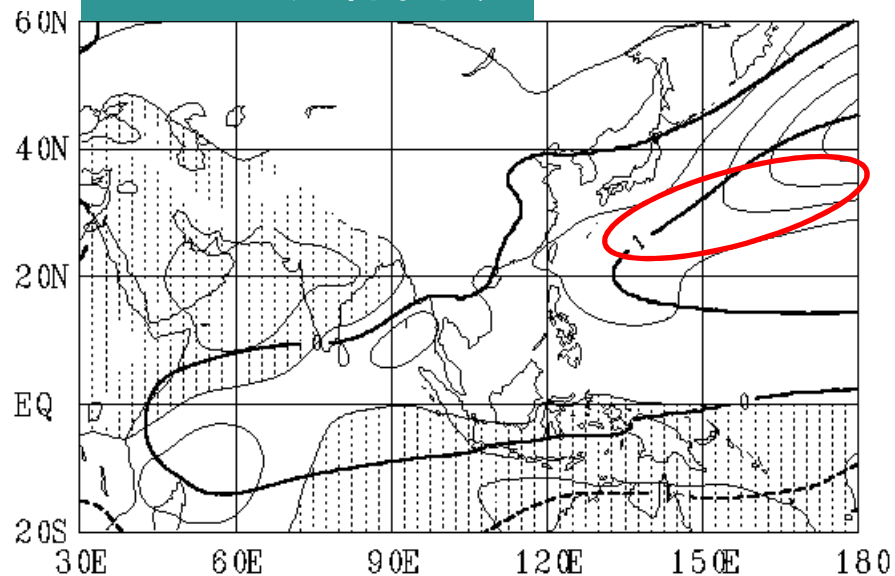
ベンガル湾とフィリピンから
ニューギニアにかけて多雨偏
差、フィリピンの東から日付変
更線にかけて少雨偏差。

200hPa流線関数



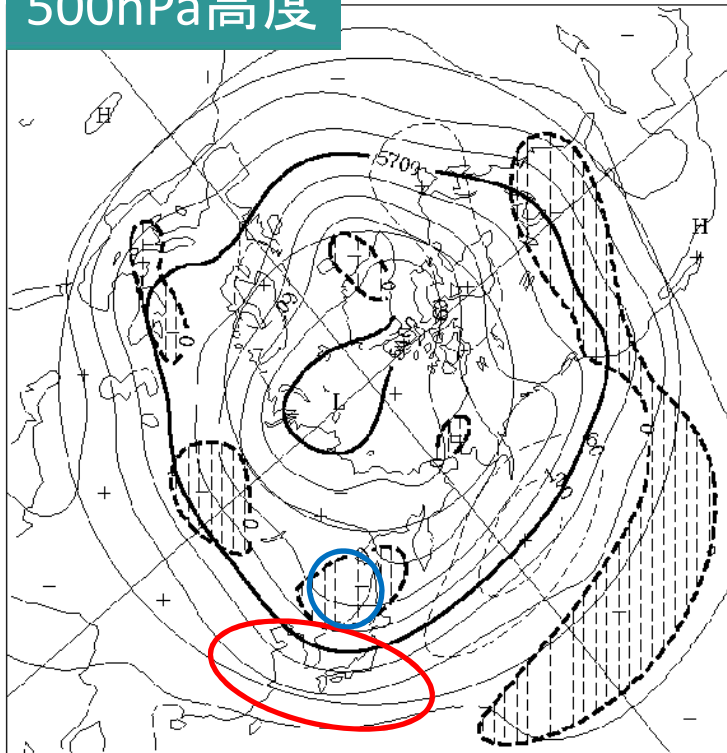
日本の南東で低気圧性循環偏差、中東から華北にかけてとアリューシヤンの南は高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



日本の南東は高気圧性循環偏差で、西日本と沖縄・奄美を中心に暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

500hPa高度

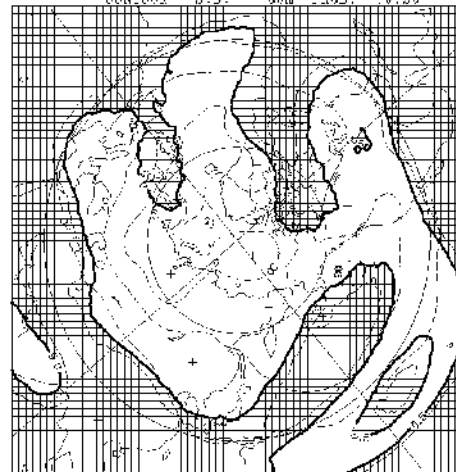
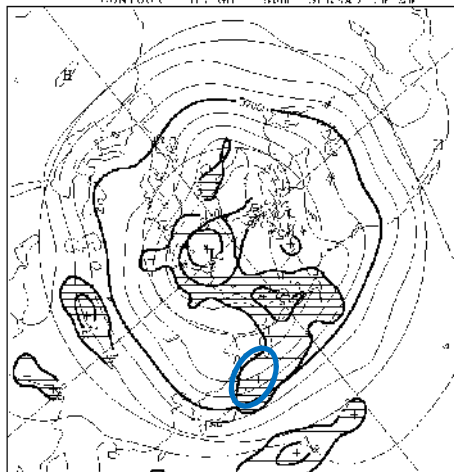


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.

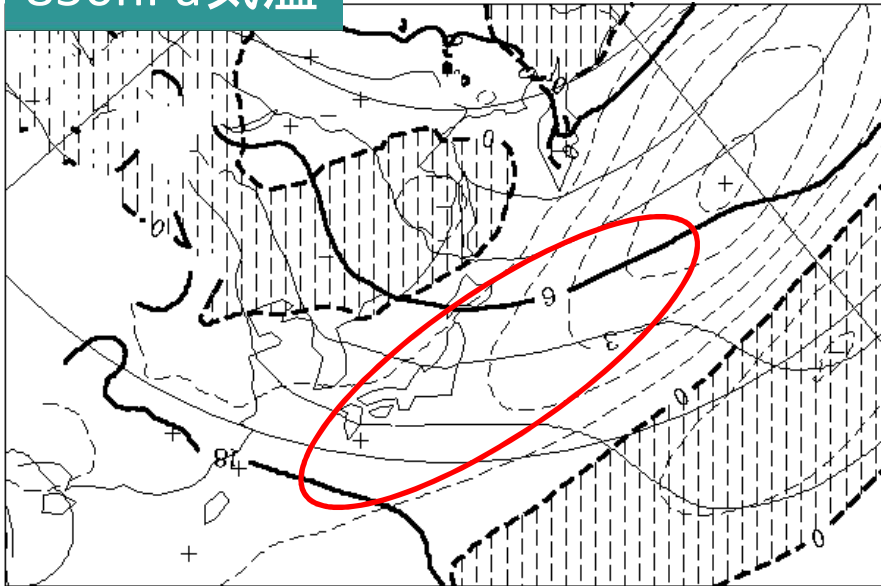
CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 300 2203 0.25



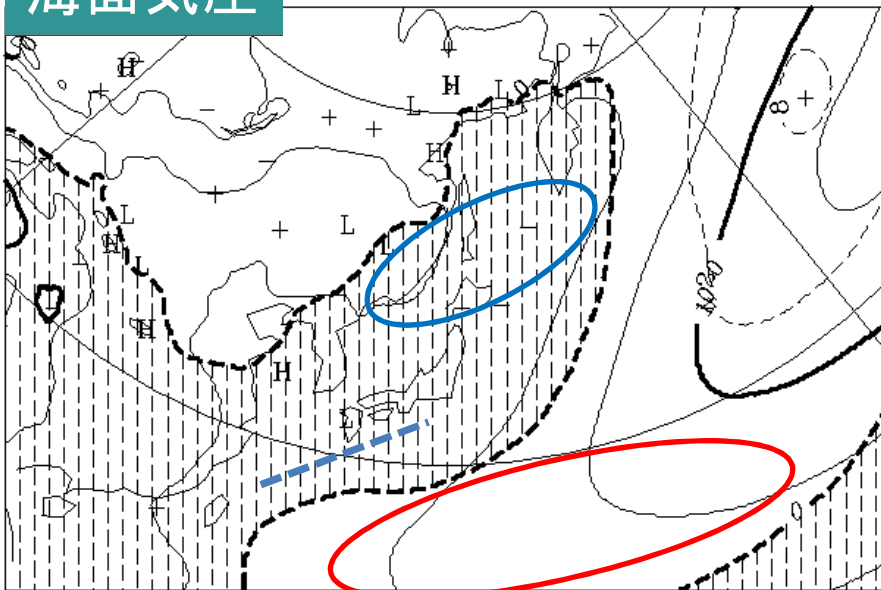
日本付近は正偏差だが西谷で、西日本を中心に前線や湿った空気の影響を受けやすい。沿海州付近は負偏差だが、北日本にはスプレッドの大きい領域がかかり、不確実性が大きい。

850hPa気温



日本付近は高温偏差に覆われる。

海面気圧



北日本は天気は数日の周期で変わるが、低気圧や前線の影響を受ける時期もある。日本の南東に高気圧が張り出し、西日本太平洋側を中心に前線や湿った空気の影響を受けやすい。沖縄・奄美は前線や湿った空気の影響を受ける時期がある。

想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本太平洋側と西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

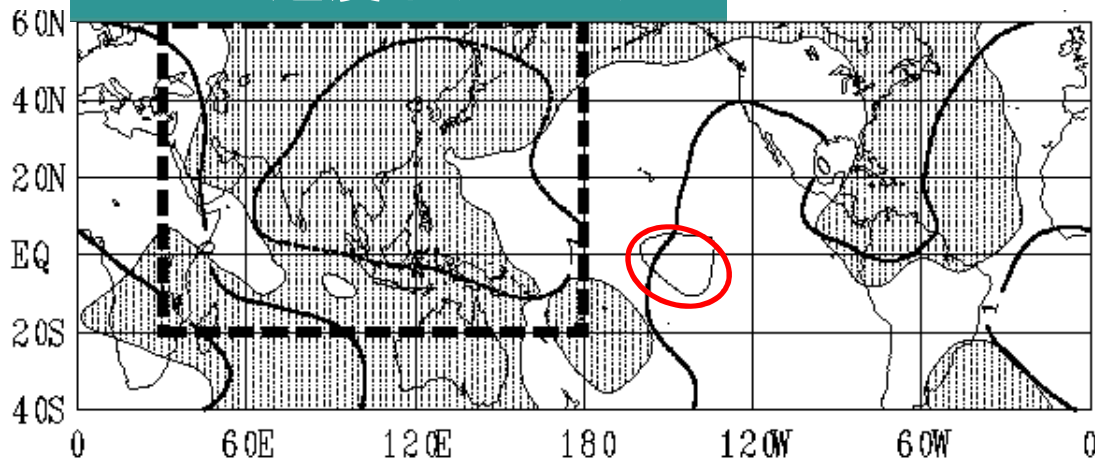
<気温>

暖かい空気が流れ込みやすいため、全国で高温で、気温がかなり高くなる見込み。

<天候>

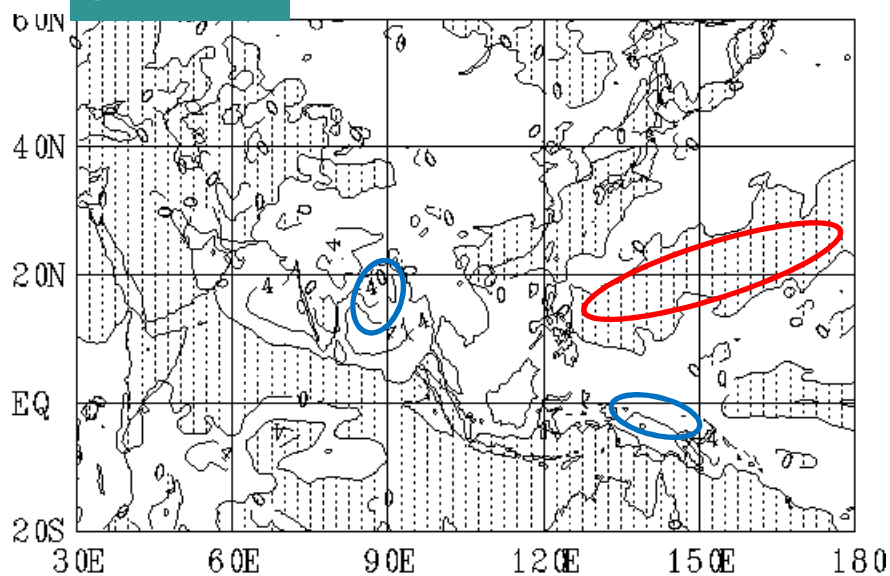
前線や湿った空気の影響を受けやすい西日本太平洋側で多雨傾向で寡照、湿った空気の影響を受ける東日本太平洋側と西日本日本海側でやや多雨傾向で寡照傾向。沖縄・奄美は前線や湿った空気の影響を受ける時期があり、やや多雨傾向で並照。北日本と東日本日本海側は天気は数日の周期で変わるが、低気圧や前線の影響を受ける時期もあり、やや多雨傾向で並照。

200hPa速度ポテンシャル



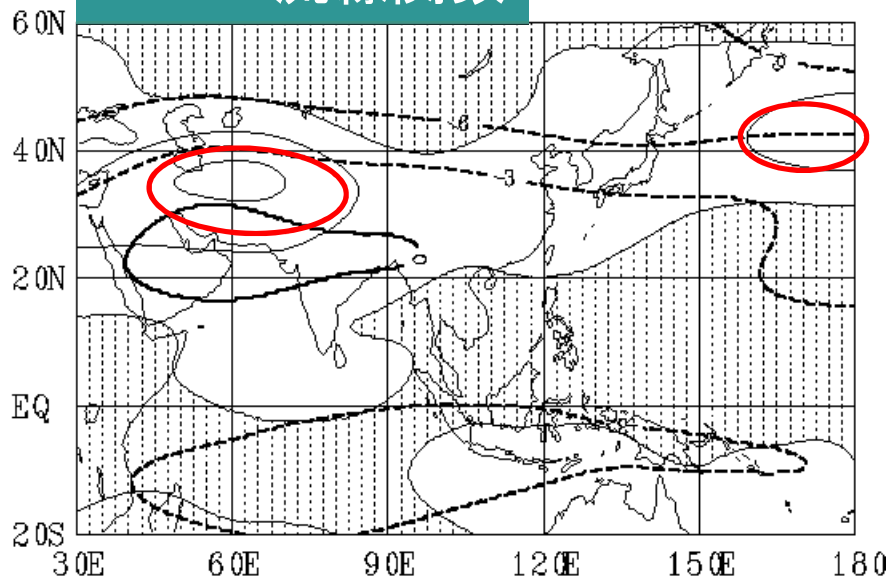
日付変更線の東を中心に上層収束偏差。

降水量



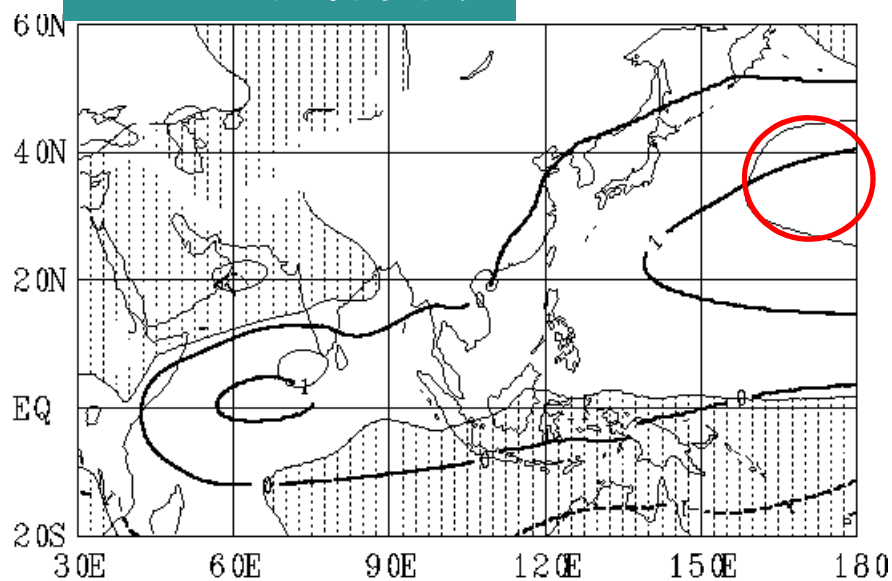
ベンガル湾とニューギニア付近で多雨偏差、フィリピンの東から日付変更線にかけて少雨偏差。

200hPa流線関数



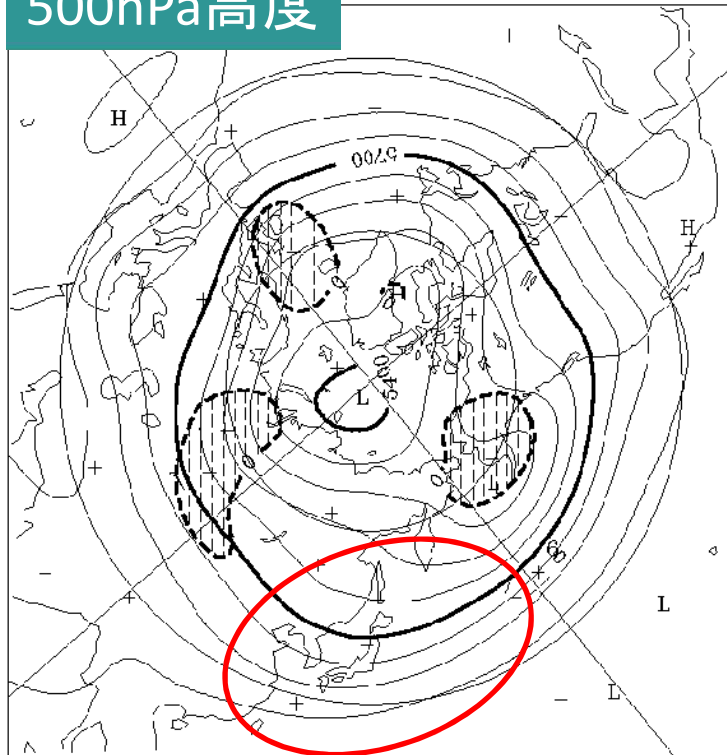
中東と日本のはるか東を中心に高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



日本のはるか東を中心に高気圧性循環偏差。

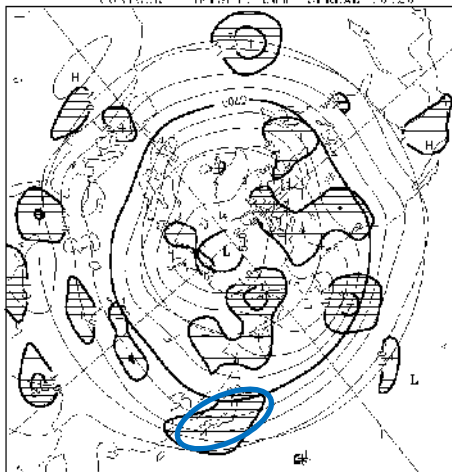
500hPa高度



日本付近は正偏差に覆われるが、日本付近にはスプレッドの大きな領域がかかり、予測の不確実性が大きい。

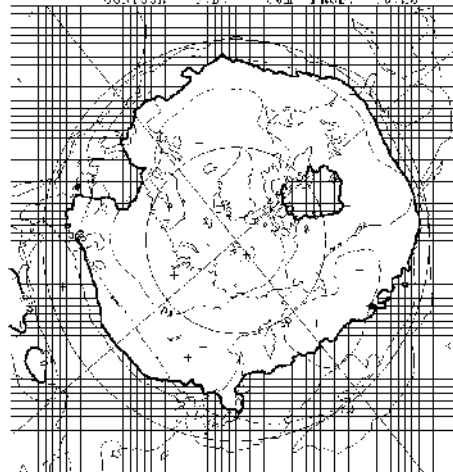
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

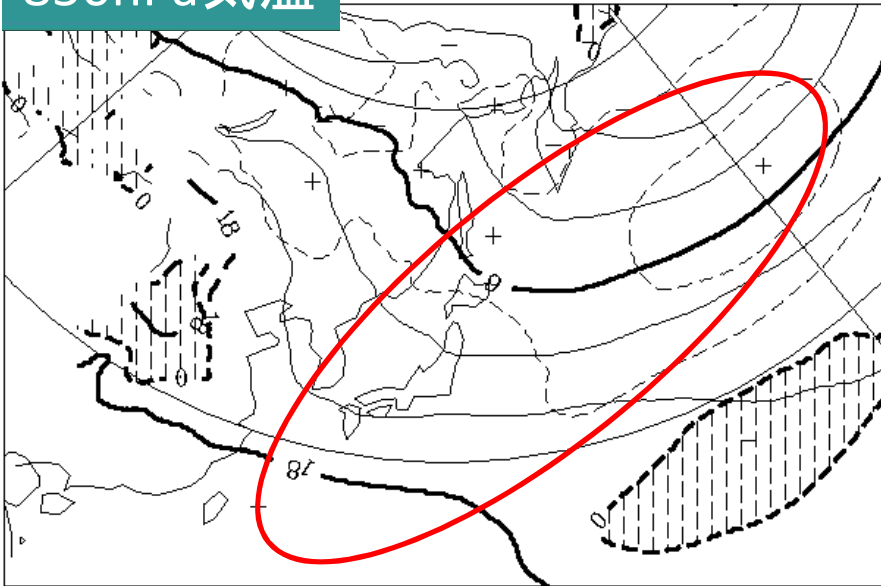


PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

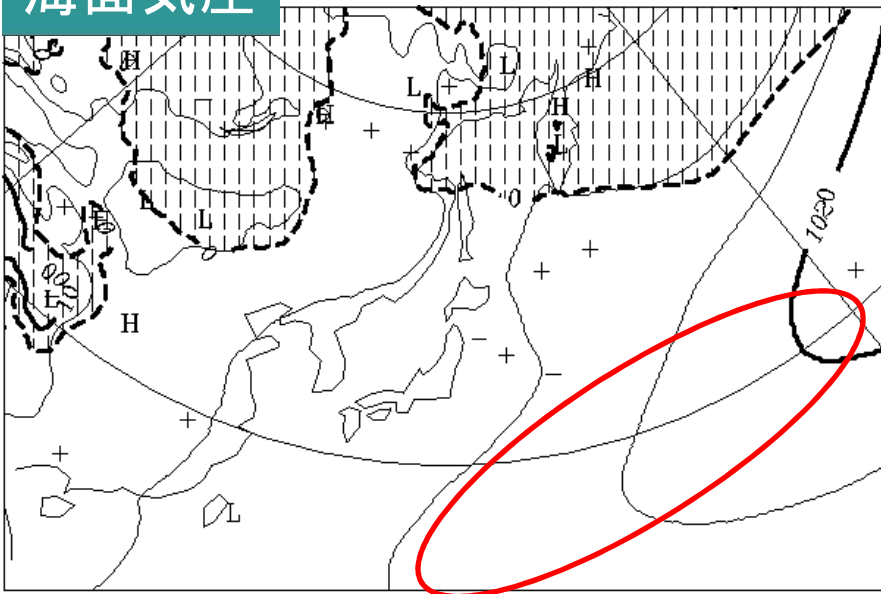


850hPa気温



日本付近は高温偏差に覆われる。

海面気圧



日本の南東に高気圧が張り出し、日本の東には等圧線のくびれも見られるが、スプレッドが大きく、平年と同様の天候で考える。

想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

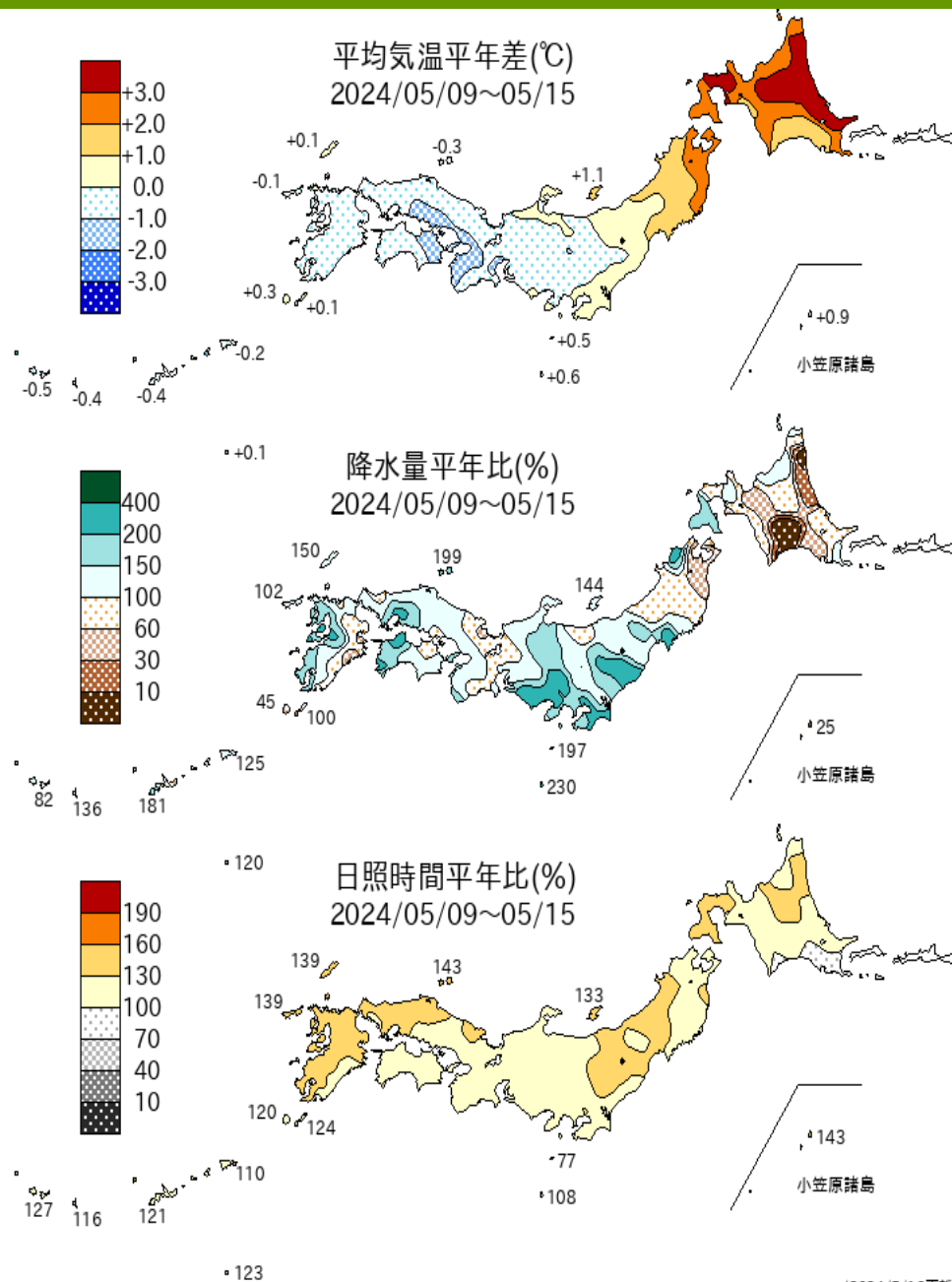
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、全国で高温。

<天候>

全国で並雨並照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(5月9日~5月15日)は、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、12日から13日にかけては前線や湿った空気が流れ込んだ影響で、東・西日本を中心にまとまった雨が降りました。

気温は、期間のはじめと終わりに寒気が入り、東・西日本と沖縄・奄美で低くなりました。一方、期間の中頃には暖かい空気が流れ込みやすかったため、北日本で高くなりました。